

# ヘルペスウイルス感染に関する研究 (分担研究報告書)

分担研究者 吉野 亀三郎  
研究協力者 川名 尚

ヘルペスウイルスの感染による胎児異常発生の有無に就いては感染者及び不顕性感染者を広く探してその中から異常児発生をさぐる方法と、逆に異常児から辿ってその妊娠中の妊婦の感染の有無を調べる方法がある。前者を分母からの調査、後者を分子からの調査と呼ぶ。過去2年間の調査の結果から見て、妊婦の妊娠中の抗体陽転は3%前後に過ぎないし、とくに2型ヘルペスウイルスのそれは1型のクロスに妨げられて良く判らない。この点をはっきりさせるために特異的2型抗体の正確な把握を目的として、諸種工夫した結果、中和用プラスチックトレイのウェルに直接吸収源としての1型生ウイルスを入れて、血清稀釈と混ぜた上、炭酸ガスふらん器に3日入れて紫外線照射することが最も実用的で能率のよい吸収法であることを確認した。今回はとくにその方法の基礎検討を進め、吸収源の存在が中和に影響しないか否か、攻撃用ウイルスに干渉を示さないか、特異2

型抗体の価を下げないかを検討し、その各ロット吸収源に就いてのテストの術式を標準化して、それに従って紫外線用量を決めた。

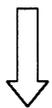
その方法で新に妊婦100名の妊娠前・中・後期300検体の血清を調べたところ、1型に関しては79%陽性なのに、2型抗体は僅かに24%陽性に過ぎないことが判った。これは大部分の妊婦が2型ヘルペスウイルスの感染を受ける危険を保有することを示す。

顕性感染に関しては、東大産婦人科で診察された18例の女性陰部ヘルペス症の妊婦に現れたもののうち、初感染例7例、誘発例11例について追跡したが、いずれも奇型発生は無かった。上記100例の妊婦についても妊娠中の抗体上昇例はなかったので、さらに探索の範囲を広げる必要を認めた。この意味で妊婦のための感染調査技術の講習会を昭和54年5月17日に行なって全国衛研・病院の協力を求める態勢を敷いた。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



ヘルペスウイルスの感染による胎児異常発生の有無に就いては感染者及び不顕性感染者を広く探してその中から異常児発生をさぐる方法と、逆に異常児から辿ってその妊娠中の妊婦の感染の有無を調べる方法がある。前者を分母からの調査、後者を分子からの調査と呼ぶ。過去2年間の調査の結果から見て、妊婦の妊娠中の抗体陽転は3%前後に過ぎないし、とくに2型ヘルペスウイルスのそれは1型のクロスに妨げられて良く判らない。この点をはっきりさせるために特異的2型抗体の正確な把握を目的として、諸種工夫した結果、中和用プラスチック・トレイのウエルに直接吸収源としての1型生ウイルスを入れて、血清稀釈と混ぜた上、炭酸ガスふらん器に3日入れて紫外線照射することが最も実用的で能率のよい吸収法であることを確認した。今回はとくにその方法の基礎検討を進め、吸収源の存在が中和に影響しないか否か、攻撃用ウイルスに干渉を示さないか、特異2型抗体の価を下げないかを検討し、その各ロット吸収源に就いてのテストの術式を標準化して、それに従って紫外線使用量を決めた。